

緩和ケアの質低下7割

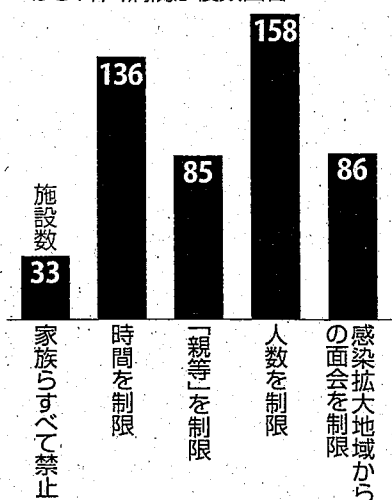
病院調査 コロナで面会制限

4/28 Y(物)

新型コロナウイルスの流行により、人生の最期を過ごす「緩和ケア病棟」の約7割が、患者や家族へのケアの質が低下したと考えていることが、NPO法人「日本ホスピス緩和ケア協会」（志真泰夫理事長）の調査で分かった。98%が面会制限を行ったことなどが要因。命に寄り添う本来の役割が果たせず、感染対策との間で苦悩する医療従事者らの実態が、初めて明らかになった。

調査は、同協会に参加する全国376病院を対象に今年3月に行い、174病院（46%）から回答を得た。調査結果によると、新型コロナウイルスの影響で昨年12月から今年2月末までに、緩和ケア病棟の全部か一部を閉鎖した病院は15%。このうち96%が、コロナ対応のため

◆新型コロナによる面会制限の内容
日本ホスピス緩和ケア協会の調査から、174病院が複数回答



め病床やスタッフを転用したことによる閉鎖だった。5人以上のクラスター（感染集団）が発生した病院も14%あった。

患者や家族に対するケアの質について、33%が「大きく低下」、39%が「少し低下」と答えるなど、7割以上が質の低下を訴えた。大きな要因が「面会制限」で、98%の病院が人数や時間、患者との親族関係の近さ（親等）などで制限を行っていた。緩和ケア病棟の

特色である家族の自由な出入り、看取りの時期の宿泊といったケアができず、「患者が家族と過ごす時間が限られてしまった」などの声が上がった。

面会制限により、患者や家族の個別の希望に対応できず、苦情を受けた病院は8割弱に上った。患者の話し相手などの支援を行うボランティアの活動も大半が中止している。

田村恵子・京都大学教授（緩和ケア看護学）は「コ

緩和ケア病棟 がんなどの末期で心身の苦痛があり、一般の病室や在宅ケアで対応が難しい患者が過半数を占める。ホスピスともいう。今年2月時点で、全国に455施設、9332床ある。

コロナ第4波で、病棟閉鎖が増えている可能性が高い。面会制限は緩和ケア病棟の存在意義を揺るがす事態であることが改めて浮き彫りになった」と話している。

△関連記事「安心的设计」面▽